会長便り159

作者： Administrator
2016年 3月 02日(水曜日) 16:01 -

北光会の更なる発展を願う
～会長就任に当たって～

鈴　木　　功（MS40）



今年の夏は異常な暑さでした。外国人観光客も驚いている様です。これも温暖化の影響でしょうか。東海・北陸支部長を７年経験し，後任に道を譲るべく考えていた処，今年３月の選挙にて，何と会長職に選任されました。驚きと共に身の引き締まる思いであります。今迄の歴代会長は全て鉱山に関与していた部門出身でありました。しかし，これからは電気電子，機械等直接鉱山に直結しない部門の方にも会長をしてほしいとの考えがあり，選任されました。

昭和17年生まれの小生は３歳で終戦を秋田で体験しました。幸いにも特に大きな被害は無かったのですが，食糧難であり，生まれてから胃腸が悪く，また良く風邪を引いた様です。車のない時代，小・中学校へ片道２kmの道を雨の日も雪の日も通学しました。以来病気とは縁が切れ，今日に至っています。

昭和39年10月１日新幹線が開通，10月10日東京オリンピックが開催，日本が高度成長の波に乗った翌年の昭和40年に小生は社会人となりました。その頃は電気・機械工業分野では文献や実物の調査等，欧米の技術を吸収し，追いつき追い越せの時代でしたが，今や日本の技術水準は世界をリードするに至りました。そして何と７年後には再度東京オリンピック開催，そしてリニア新幹線開通という時代になりつつあります。小生が取り組んで来た超高速及び可変速回転電機は，あらゆる産業分野に於いて，機械式から電機式に置き換わりつつあります。その最も顕著なものは電気自動車用同期モータでしょう。車と言えばガソリンを燃やしてエンジンを駆動させるやり方が当たり前でしたが，何と超高力磁石材料(希土類系)とその適用技術の出現によって，ガソリン不要の車が実用化されたのです。もう一つは，燃料電池車の研究です。何と小生が企業に入った50年前からの研究です。こんなことで燃料が電池に代わるものかと疑問を持ったものですが，それが実現してしまうものです。また音速を超える周速を持つ回転体を駆動する為，磁気特性(Br-Hc特性)が良く，高強度のモータロータ材が求められます。これらは国内外のあらゆる研究機関を活用して実現してきました。また最近は超高速エレベータ等の出現により，超高層ビルが出現しました。レアアース等の希土類材料は中国の動向に左右されてはいけません。その意味でも国際資源学部が新設されたことは特筆すべきことであります。世界ではまだまだ貴重な資源が眠っています。各国と協調して資源の開発と，その有効活用が期待されます。また，理工学部も新設されました。ご存知の様に現在日本は人口減少に向かっています。大学も縮小・閉校されることが有りますが，新設されることは特筆すべきことであります。日本の中での大学が，世界の中での大学となることができます。資源で世界を更にリードしてゆくことが肝心です。

大学で学んだ固有の技術を実社会では用途に応じて具体的な製品・技術に仕上げる必要があり，また日限も要求されます。北光会では「北光会技術相談システム」を立ち上げました。技術相談員としては現在30数名が登録されていますが，更なる相談員を増加させ，技術相談の活性化を図る必要があります。同窓生同志の交流が結果的に問題解決となり，企業に寄与することは大いなる成果と言えます。北光会だけに留まる必要がありません。日本では筑波学園都市にも各種研究所があり，また企業にも種々の研究所を持っています。それらも大いに活用し，実用化できる技術・製品に仕上げることが必要です。

会費納入について述べたいと思います。平成２年，学科名が変更になり，平成６年，その卒業生が社会人となりました。その頃から会費未納者が増えつつあります。北光会は資源と共に理学・工学と幅広い分野があり，北光会内における意識改革が必要となります。しながら活動支援寄付金をお願いした処，沢山の方々にご支援頂いています(北光154号，157号参照)。平成以降の卒業生からもご支援を頂いており，説明をすればご理解いただけるものと考えています。

また，会員の更なる交流を期待してクラス幹事制度を設定しています。これは各クラス自身が，お互いに連絡・連係を深め，各自が抱えている問題を解決することや各クラスの親睦を一層深め，活性化することにあります。ひいては会費納入率アップにもなり，「奨学金支援」にも繋げて行きたいと思います。北光会が益々活性化し，発展することを期待致します。